

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所 ウイング・ケアサービス		
○保護者評価実施期間	令和6年1月1日		～ 令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和6年1月1日		～ 令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	長期的視点を軸に、個々のお子さんの生活能力の向上、生活の質の向上を意識して、職員が職務に従事することができています。	保護者様の希望、ご本人の希望、ご家庭や学校等の環境等を十分に踏まえ、支援事業者として「こうなって欲しいな」という希望も加味した支援計画を作成し、保護者・本人も理解できることを重視した支援に努めています。	保護者様との情報共有内容は、毎時のミーティング等で全職員とも共有し、計画作成の意図、進捗状況等の共通認識を持つ環境づくりに引き続き取り組んで参ります。
2	個々の障がいの特性や日々の状況の変化に柔軟に対応し、個々のお子さんが日々の活動を「自分自身で選択して楽しむ」ことを大切にするという視点を持って、職員が職務に従事することができています。	個別の取り組みに関しては、職員が日々、個々人の状態十分に観察し、過度の負担が掛からないよう、結果に固執しすぎないよう意識した支援に努めています。	定期的な事例の検討会や、社内外の研修への参加を通じて、個々の職員の更なる知識習得や視点を広げる取り組みを継続して参ります。
3	情報の開示や情報の共有など、個人情報に十分に配慮した上で、SNSツールなどを活用して、保護者との比較的に密な情報共有ができています。	情報は、「事実であること」を常に意識し、速やかに伝達する事、内容を精査して伝えることの精査を職員が日頃意識して保護者との情報共有に努めています。	個々のご家庭の環境に配慮した情報伝達手段の選択に努め、安易に統一した伝達手段を用いることに陥ることがないよう取り組んで参ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1人1人の障がいの特性に応じた5領域の支援の焦点化(何をどのように)に弱さがあります。	5領域への理解及び5領域への関連付けが不慣れな点が要因と考えられます。	職員全般が日々の支援の中で領域を意識できるよう、配慮した研修やミーティングを継続して行って参ります。
2	長期的な成長への視点を重視していることもあり、比較的中期・短期の目標設定の具体性に弱さがあります。	個別支援計画作成時の保護者様の意向と、本人の希望や意思、又は推測されるであろう反応を考慮し、あまり範囲狭めず、日々の本人の感情面での状況を意識した課題設定を行っている状況が要因と考えられます。	本人の気持ちを向けることが出来たこと、ステップアップの可能性が見込まれる時期には、適切に計画更新作業を行って参ります。
3	旧基準での環境となるため、耐震基準は満たしているものの、環境面での改善が難しく、手狭に感じられるという弱さがあります。	広さに限りがある状況のため、バリアフリー化等含め、現在の基準に全て合わせるのが難しい状況です。	現行基準を満たした広さや設備が設置できる物件の選定を継続して行っています。